

ハートフルでスピーディーな診療を目指す

豊橋ハートセンターは1999年5月6日にオープンした、まだ新しい病院だ。最新の医療設備と器具を持つ循環器医療専門施設で、24時間救急体制を実施している。鈴木孝彦院長は国立豊橋東病院副院長として活躍したカテーテル治療の第一人者。院長が「患者様本意の医療を行いたい」と退官前10年間ほど思い描いてきた「理想の病院」を実現すべく、開院した。

この病院の特徴は、スピーディーな診療・治療。循環器疾患では診断や治療方針の決定までにさまざまな検査が必要となるが、ここでは初診でもその日のうちに血液検査や胸部レントゲン、心電図、心エコー、トレッドミルといった検査が受けられる。

院長が専門とするカテーテル検査は日帰りで行われる。カテーテル検査は2泊3日で行う施設が多いが、ここでは10～20人の患者が8時半に集合し、早い人ではお昼過ぎに、遅い人でも夕方6時ごろには帰宅する。カテーテル検査の前日に看護婦が、翌日には内科医が電話で患者の体調や不安をケア。患者は医療費が安くなるのもメリットだ。日帰りカテーテル検査の症例数は1年間で2,000例、入院している患者も含めると2,700

例にものぼる。また、PTCAをはじめとするカテーテル治療も年間1,000例以上行っている。

心臓血管外科は、院長と同じ国立豊橋東病院からこの病院の設立に参加した大川育秀副院長が指揮を取る。大川副院長はバイパス手術の症例数では日本でも有数。通常のバイパス手術のほか、MID CAB（低侵襲冠動脈バイパス手術）や人工心臓を使わない、心臓を動かしたままの手術を実施しているため、通常は1ヵ月の入院を要するバイパス手術もここでは1～2週間で退院となる。

このような診療体制によって、入院患者の平均在院日数は5日未満とかなり短くなっている。「早く退院できるシステムは技術的な裏付けがあってこそ。最新の低侵襲の検査や手術の方法を取っているから」と白川洋之事務長。

地域の開業医から患者が送られてくるほか、評判を聞いた患者が愛知県内や三重、岐阜といった中部地方はもちろん、東北や九州からも訪れる。昨年9月末までに8,500名（カルテ数）を診察してきたが、そのうち4分の1強にあたる2,300名が他施設からの紹介患者だった。



病院のモットーは「患者様に優しく、温かい真心のこもった医療」。「ハートセンター」という命名にも心臓とともに心を大切にするという気持ちがこめられている。白川事務長は「気持ちよく受診していただけるように接遇に力を入れている」という。患者への挨拶を徹底しているほか、日帰りカテーテル検査時の昼食費、入院時のテレビやウーロン茶は無料にし、患者の利便性を考慮して院内調剤を実施している。差額ベッドもない。土曜日にも日帰りカテーテル検査を行っており、仕事のある患者や家族には好評だ。

2001年9月には68床に増床予定。シネ装置やRI MRIのほか、カテーテル検査を受ける患者とその家族のためのリラクゼーションルームも広げる予定だ。

鈴木院長はアメリカをはじめ、世界の病院の手厚い医療を目の当たりにしてきた。「医療はサービス業。“患者様にいい医療”に徹し、これからは家族のケアにも力を入れたい」と抱負を語る。

（小島）

企画担当MR
名古屋第2営業所 松本 始



病院外観